【2025 SyDE 産官学協働研修 実施報告】2025.4.10～2025.10.13

2025 年 4 月から 10 月にかけて、石川県輪島市門前町および四日市大学において、被災地支援活動を題材とした実践型研修を実施した。本研修は、被災地支援団体による活動を引率教員・コーディネーターの立場から俯瞰し、支援計画の企画立案、学生引率、現地調整、事後研修までを一貫して経験することを目的としたものである。研修では、四日市大学「四日市東日本大震災支援の会」と協働し、四日市大学で行う被災地支援準備から、石川県輪島市門前町の仮設住宅で足浴（写真-1）と茶話会（写真-2)、生活状況の聞き取り、地域の支援先への橋渡し、成果共有までを一連の流れとして行った。ここでは引率者の立場で学生を伴う支援活動を安定的に運営するための役割分担、安全管理、記録方法、優先順位の設定について、地域関係者との確認と調整を重ねながら整理を進めた。これらの過程を通じて、被災地支援を教育実践として構成・運営する際に求められる判断や調整を体系的に理解し、半年間で全 5 回の研修を通じて当初の目的を達成することができた。

本研修を通じて、被災地支援団体の活動を引率教員・コーディネーターの立場として、ボランティア活動の立ち上げから事後学習までの一連の実践的知識を得ることができた。特に、学生を伴う支援活動においては、支援内容そのものよりも、役割分担や安全管理、関係機関との合意形成、記録とふり返りの設計が運営の成否を左右することを理解した。一方、今後の課題としては、被災地の状況変化に応じて支援の優先順位を柔軟に更新する判断基準をより明確にすることや、引率者の関与の程度を調整しつつ、学生の主体性と支援の継続性を両立させる運営方法を新たに整理していく必要があると考えた。

足浴ボランティアという地域への小さな介入が安心を生み、語りがほどけ、暮らしの声が自然に立ち上がる場面に幾度も立ち会った。被災者支援は「してあげる」のではなく「一緒に整える」姿勢が信頼を生み、地域の力を引き出すと実感した。本研修は、四日市東日本大震災支援の会、四日市大学の鬼頭浩文先生と学生・教職員各位、輪島市社会福祉協議会、浦上公民館、志賀町富来仮設商店街、日本医療ソーシャルワーカー協会、能登町移住促進支援センターほか多くの協力によって成り立った。ここに深く感謝申し上げます。

雁部那由多（文学研究科・総合人間学専攻・D1）

写真-1 足浴の様子（清水第一団地仮設住宅）

写真-2 足浴・茶話会の様子（道下第二団地仮設住宅）